

[成果情報名]鉢花新商材「クランベリー」の立体仕立て栽培

[要約]低コスト栽培が可能なクランベリーは、柔らかな徒長枝を利用することで立体的に仕立てることが可能である。この立体仕立て栽培は、挿し木から3年目で結実率が向上し鉢花品質に優れる。

[担当]総農セ・高冷地振興セ・岳麓試験地 渡辺 淳

[分類]技術・普及

[課題の要請元]

富士・東部農務事務所

[背景・ねらい]

クランベリーは低コスト栽培が可能なため、鉢花農家のローテーション品目として有望である。通常の仕立てでは、果実が茎葉に隠れやすいため、徒長枝を利用して立体仕立てにすることで鉢花品質が高まる。そこで、効率的な立体仕立て栽培法を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 挿し木を4月に行い、その年の8月上旬までに最終ピンチを行えば、3年目には、安定して一鉢あたり100粒以上の実を付けることが可能である。
2. 8月上旬にピンチした場合には、ピンチから約20日後に植物調節剤を茎葉散布することで、さらに実の付きが向上する。
3. あんどん仕立てで徒長枝8本の場合は枝長さ80cm以上あれば枝密度は高まる。一方、12本の場合は60cm以上の枝長で枝密度は高まるが作業性が低下する。
4. 円すい仕立てでは、徒長し6本、60cm以上で枝密度は高まり、あんどん仕立てよりも作業時間は短い。

[成果の活用上の留意点]

1. 品種は在来品種を使用する。
2. 挿し木は、プラグトレーに1本さし、鉢上げ時に5号鉢に4本植えとする。
3. 開花の時期の灌水は受粉の妨げとなるため花に直接水がかからないよう注意する。
4. 低温には強いが乾燥に弱いいため、水切れに注意し水管理をこまめに行う。

[期待される成果]

1. 鉢花農家において出荷する品目の少ない7月～10月まで販売が可能であり、経営規模に合わせた導入が可能である。
2. 冬期最低夜温度2℃で十分生育するため低コスト生産が可能で暖地、高冷地いずれの生産者にも導入できる。
3. 市場調査の結果、評価は特に高いため、有望な新品目となる可能性が大きい。

[具体的なデータ]

表1 ピンチ時期、植調剤の処理時期が挿し木後2年目の結実等に及ぼす影響

最終ピンチ時期	直物調節剤処理時期	結実数		結実株率	
		平均/株	100粒未満	100粒以上 150未満	150粒以上
平成21年8月5日	平成21年8月25日	169	0%	40%	60%
	平成21年9月5日	129	0%	70%	30%
平成21年8月15日	平成21年8月25日	97	20%	50%	30%
	平成21年9月5日	137	50%	40%	10%
平成21年8月25日	平成21年8月25日	110	40%	60%	0%
	平成21年9月5日	127	20%	60%	20%
無	無	125	10%	80%	10%

挿し木時期:平成20年4月25日

表2 枝数と枝の長さや枝密度および作業時間との関係

枝数 鉢あたり	枝長 cm	鉢花品質 (枝密度)	作業性		総合評価
			作業時間(分)	難易度	
あんどん	60	やや粗	5.2	やや易	△
	80	やや密	7.2	やや難	○
	100	やや密	8.2	やや難	○
	80	やや密	7.9	やや難	○
	80	やや密	8.2	やや難	◎
	100	密	7.8	やや難	◎
12	60	密	10.2	難	○
	80	密	11.9	難	○
えんすい	60	密	5.9	やや易	◎
	80	密			◎
	60	密	7.7	やや難	◎
	80	密			◎

鉢花品質:枝密度20%未満を粗、20以上25%未満をやや粗、25%以上30%未満をやや密、30%以上を密として評価した。

難易度:作業時間5分未満を易、5分以上7分未満をやや易、7分以上10分未満をやや難、10分以上を難とした。

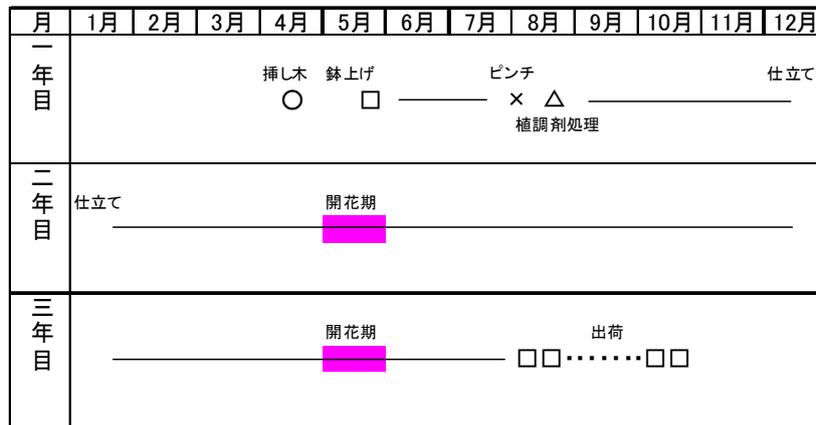


図1 クランベリーの立体仕立ての作型

[その他]

研究課題名 花木鉢物の新品種の育成と栽培技術の確立

予算区分 県単

研究期間 2003-2011年度

研究担当者: 渡辺 淳、外川高雄